

イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、その悩みを少しでも分かち合うことのできる教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」増補新版より

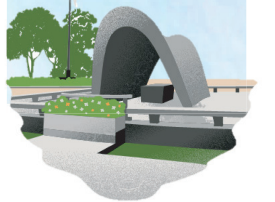
第41回 Heiwa junkan

平和旬間



8月6日(広島原爆の日)～15日(終戦記念日)

戦争は人間のしわざです。戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です。(教皇ヨハネ・パウロ二世)



1981年、教皇ヨハネ・パウロ二世は、平和の使者として訪れた広島で平和アピールを発表した。

1982年、日本の教会はこのメッセージを受けて、8月6日～15日までを「日本カトリック平和旬間」と定めた。

このアピールから42年経った今でも、戦争は途絶えることがありません。私たちが生きる東アジア諸国でも、大国間の利害がぶつかり、いつ戦争に巻き込まれてしまうかわかりません。今年も、決してあきらめることなく平和な社会を築いていく担い手になれるよう、祈りとともに歩んでいくことが出来る平和旬間になりますように。

— わたしたち一人ひとりが平和のつくりびと —

2023 教区平和旬間テーマ

「希望をもってともに歩む Let's hope and walk together



～あきらめずに目を覚まして Stay awake, never give up ～」

今年は「シノダリティ(ともに歩む教会のため ～交わり 参加 宣教～)」の精神を持って行動する年です。平和旬間のテーマはこの「シノダリティ」と「世界平和の日」教皇メッセージからヒントを得て、戦争と平和の視点から考えられました。



「ともに」対話すること、とりわけ外国籍の方、戦争体験者の方の話を聞くことが大切です。コミュニケーション不足が目立つ今、全ての人々がともに生き、お互いの言葉に耳を傾ける世の中が平和に近づくこととの願いがこめられています。また、日本と世界の現実には希望が持てない状況ですが、あきらめず現実をしっかりと見つめ、「ともに」祈ることも求められています。そのために外国籍の方にもわかりやすく英語表記も入れました。

各地区、ブロック、小教区での企画準備が進められています。

企画するにあたり、ヒントがあればぜひ欲しいという声が多数寄せられました。過去に取り組まれた中からいくつかご紹介します。

こんな集いにしたいね！

絵本を通して平和を考える

朗読、スライド、子どもも大人も一緒に紙芝居をつくり、当日わかちあう。



戦争と平和の経験、生き方、考え方などのアンケートを事前にとってわかちあう。



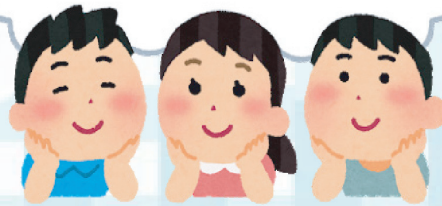
世代間での分かち合い

質問しあったり、話をきいたあとにメッセージの交換をする。



国籍、世代を越えてひとりでも多くの人が集まりにしたい！参加できる集いにしたいな

少子高齢化だし、隣の小教区と一緒にできるといいな。



パネラーによるスピーチリレー

共同開催にして、各教会からスピーチしてもらいわかちあう。教会間のつながりもできる。



多言語で表記したポスターを作成する

国際ミサを行い国籍を越えた平和祈願ミサを行う。

わかちあったことを、祈りにして来年の平和旬間まで、日々の祈りに取り入れる。

戦時中の食糧難を思い起こすために「おにぎり」を各自持参して体験者の話を聴く。すいとんをつくって食べる。



写真や証言を通して戦争に触れる解説に英訳などをつけると外国人とも共有できる。

- 期間中に図書コーナーを設ける
- 近隣の戦争遺跡を巡る
- 多言語で平和の思いを伝え合う
- 歌や演奏を通して平和を考える
- 平和学習の発表
- 最近の世界の情勢を取り上げる
- 核なき世界基金について